

新型コロナウイルスの猛威の中 みんなで力をあわせてがんばってます！ 喜楽

喜楽の従業員が出入りする玄関には、職員が書いた来所したらずに手を洗ってくださいの貼り紙がしてあります。もともと風邪やインフルエンザ等の予防として来所時の手洗いは推奨していましたが、皆に徹底し貼り出しをしま



「結い」だより

第58号
発行
社会福祉法人 結い
〒703-8255
岡山市中区東川原18-1 203
TEL 086-206-7385
FAX 086-206-2801
発行責任者
前田 勝子

ものを使って消毒をしています。三密を避けるために事務室や休憩室のレイアウトを変更し、密集してしまったり向かい合わせになつたりしないようにしました。特に食事中に飛沫が飛んで感染するリスクが大きいので、昼食時は皆でソーシャルディスタンスを取ることが心掛けています。新型コロナウイルスの流行で会議やイベント等が減少し、会議食の弁当注文がなくなりました。売上げが落ち込んでいますが、みんなで力をあわせて乗り越えていきたいです。

手すりや取手、テーブル等の消毒も、当初厨房で使用していた電解次亜水を使用していましたが、新型コロナウイルスに効果がないことが分かり、現在では食器用洗剤を薄めた

結い後援会へ 手作りマスク寄付



利用者のご家族から、結い後援会へ手作りマスクが寄付され、1枚300円で販売させていただいたところ、アツという間に完売。手作りマスクは、顔にフィットする立体裁断。柄もすてきで耳がいたくならないようにゴムの代わりに柔らかいひもがついてます。後で知った方からはもうなくなったの。残念だわ。とのたくさん声をいただきました。

寄付していただいたご家族の方本当にありがとうございました。



売上金は結い後援会へ入れさせていただきます。



「のつぼ」就労継続支援B型事業所名「喜楽」へ

いままでは宅配弁当屋喜楽の就労継続支援B型事業所としての名前が、「のつぼ」とよんできましたが、「のつぼ」喜楽と2つの名前がありまぎらわしいということから、8月から障害福祉サービス事業所の名前も「喜楽」とそろえることになりました。

これからは、障害福祉サービス事業所も「喜楽」として、みなさまにおぼえていただきます。



2019年度 苦情受付報告

受付日	発生時期	場所	内容	受付者	対応結果
5月8日	2019年春	ワークハウス・わくわく!	職員の言動に対して	高橋	職員会議にて作業指示を出すときには具体的に指示を出すように確認した。本人はその後退所。
6月24日	6月24日	ワークハウス・わくわく!	職員の言動に対して	高橋	高橋と職員と面談。利用者の特徴と障害部分について説明。作業指示の出し方について何度もゆっくりとやさしく伝えることを確認した。その後は一緒に作業に参加できるようになった。
9月10日	9月9日	にのつぼ(喜楽)	職員の言動に対して 担当職員を配置転換してほしい(母親から)	早瀬	担当職員に状況を確認。配慮が足りなかった点を伝え謝罪。配置転換については、応えられないことを伝える。
10月10日	10月10日	にのつぼ(喜楽)	事業所運営時間変更について	高橋	高橋・早瀬所長3者にて面談。運営時間の変更についてきちんと伝えられていなかったことを謝罪。作業時間について相談した。
10月23日	10月23日	ワークハウス・わくわく!	AさんがBさんに暴力をふるうので、もう一つの作業場で働きたい。	高橋	高橋が、AさんBさんと1人ずつ面接。Aさんはたたいいないことが判明。Aさんに謝罪。もう一つの作業場に行きたいことを担当職員に伝える。
12月10日	12月10日	ワークハウス・わくわく!	職員の言動について	高橋	本人・高橋・当時者職員と3者にて面談。状況について説明し謝罪。
2月20日	2月20日	にのつぼ(喜楽)	職員の言動について	高橋	高橋と職員と面談し、本人への配慮が足りない部分を確認。

結い後援会への新規加入と継続のお願い

私達は、障害を持って生きていかなければならない人々へ、温かい行政と財政支援を要求するべく、今後も努力し続けます。しかし、私達のみでは微々たるものです。ぜひ「結い」後援会にご加入いただき私達の活動を支えてくださいますようよろしくお願い致します。

<お振込先> 郵便振込口座 01360-0-57757
社会福祉法人「結い」後援会
(個人：年1口 千円 団体：年1口 3千円)

2019年度事業報告

ワークハウス・わくわく！ 事業所



新規利用者は6名、退所者は8名でした。新規通所者のうちの3名はのつぼからの転籍者です。利用者の方々は作業参加を職員と一緒に「行うこと」を望んでいません。しかし、前年度末から職員の入替わりが激しく、安定して支援につなげられませんでした。

8月～9月は台風による事業所の閉所、また2020年1月より新型コロナウイルスの感染拡大のため、通所することに不安を訴える利用者が発生しました。また、体調不良による一時的な休みだけではなく、入院された利用者、長期的な休みに入る利用者など欠席者が相

次ぎ、全体的な来所者数の減少につながってしまいました。

今年度は職員一体となれるよう短時間でも月2回は利用者支援方針の確認の場を設け、また、利用者の声を反映させた働く場づくりを目指して、職員・利用者合同のミーティングを月1回は開催していきたくと思っています。

軽作業

軽作業売上は8,342,769円となり、2018年度と比べ△638,565円となりました。軽作業売上のうち84%が洗濯作業です。

その他

郵送作業が582,855円(8%増、46,974円)みんなの診療所(横ばい)、明和製紙(横ばい)、北村コーポの設備整備などがありました。

工賃については、工賃支給延べ人数363名(△8名)に対し4,794,130円支給しました。このうち夏季賞与(原資206,000円)を29名に、期末手当(原資334,000円)を25名に支給。月額平均

均工賃は13,206円/人(1,927円増となりました)。

Yショップ

取入

2018年度に比べ△1,870,311円(△13%)の13,111,366円でした。

支出

利用者工賃は2,782,662円(△11%、△338,113円)となりました。

ヤマザキパンのフランチャイズとして支払うロイヤリティーが年間36万もかかり、自分たちで仕入れをしなければならなくなっています。加盟店であり続けることのメリットはもとより、より効果的・効率的な仕入れの方法が他にないのか、引き続き利用者と共に模索していきたいと思っています。

課題と2020年度へむけて

2019年度は職員と話をする時間が少なく、思いや考えを受け止

めることができず利用者の心理的負担が大きくなっていました。

2020年度はYショップ作業をより幅広い利用者がたずさわれるようつくりなおし、にない手のすそ野を広げるとともに、店舗運営の核となる分析業務や企画業務への利用者の参加も促進していきたいと思っています。



応募者です。

終了者4名の内訳

・1名は、自分で職場を探し就労。(しかし退職となっているという情報が入っています。)

・他自力での就労が1名。その後コロナ禍で退職となり、就職を支援。現在非常勤職員として就労。

・母親が高齢なため在宅での介護が不可。精神科への長期入院となり終了。

・就労継続支援B型事業所へ通所していたが、疲労困憊し退所。その後自宅へ。

利用福祉サービスについて

・就労移行支援事業所から、障害者雇用を利用し9月就職した利用者が就労定着支援を利用。就労移行支援事業所と連携し就労を支援しました。

のつぼ事業所

2019年度は、2018年度より232名増えて3,236名の利用がありました。新規通所者数は8名でした。

利用者がしやすいように作業場と休憩室を明確に区分し、居場所づくりを行いました。新規の方には職員がつけれるように業務の流れや受け入れ時間を見直したことが利用者の定着につながったと考えられます。また、短時間しか参加できない利用者の作業として、業務の棚卸しや配達前の準備やその片づけ、ユニフォームの洗濯などマイペースにできる業務を準備しました。今年度は、職員もいっしょに作業できるように体制をとっていききたいと思っています。

職員体制について、収益が見込めず、退職した常勤職員の補充は断念しました。また、法人としては、初めての男性職員による育児休業が発生。また、次に産休に入る常勤職員の代替要員として常勤職員の雇用を検討しましたが、非常勤雇用とすることにしました。就労継続支援A型事業を視野に、業務

宅配弁当屋 喜楽

の組み換えを行いました。売上げが確保できず職員体制も充分でなく、2020年度からの事業開始には踏み切れませんでした。

弁当の売り上げ2,200万円まで上げることが目標にしましたが、前年度より1,169,925円下がりました。しかしながら、常勤調理師退職後、調理体制の改善や勤務の見直しと皆さんの協力・努力の中、前年度よりも495,117円赤字幅が狭まり△63,575円となりました。



特定相談支援事業所 ハウスけやき

新規利用者について

・新規希望は法人内・外であるが、兼務での職員体制ではこれ以上の受け入れは難しく断ってきました。新規1名は、法人の求人への

